

いわて復興だより



平成 23 年 3 月 11 日に東日本大震災津波が発生しました。発災以来、国内外から多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げ、この「つながり」を大切にしていきたいと思っております。

がんばろう! 岩手 つながろう! 岩手 第 168 号 令和 2 年 12 月号

復興に向けて歩み続ける岩手県の今を紹介します

菅総理大臣が本県の復興状況を視察

令和 2 年 12 月 10 日 (木)、菅義偉総理大臣が就任後初めて岩手県 (陸前高田市と宮古市) の復興状況等の現地視察を行いました。

菅総理大臣は、平沢勝栄復興大臣とともに陸前高田市の高田松原津波復興祈念公園を訪れ、献花・黙とうの後、戸羽陸前高田市長などから復興状況等に関する説明を受けました。

達増知事からは、復興道路や三陸鉄道などの交通ネットワークや商業施設等の整備に加え、災害公営住宅の整備完了等に伴う被災者の暮らしの再建など、復興の着実な取組状況について説明されました。また、被

災者のコミュニティ形成や心のケア、新型コロナウイルス感染症等による地域経済への影響などの課題を述べるとともに、国に対して引き続き必要な財源や人材の確保、国際リニアコライダーの実現のための協力等を要望しました。

その後、両大臣は宮古市の田老地区第一防潮堤を視察し、山本宮古市長から地区を襲った津波の被害や整備中の防潮堤に関する説明を受けました。また、震災遺構の「たろう観光ホテル」を訪れ、地元の語り部などから説明を受け、震災当時の状況や津波の恐ろしさを確認しました。

視察後、菅総理大臣は「震災から 10 年を間近に控え、復興の総仕上げの段階となっている。被災地の復興、東北の発展に全力で取り組んでいく。これからは心の問題への対応などにも政府として支援する」と述べました。



献花の後、黙とうを捧げる菅総理 (陸前高田市)

いわて三陸復興フォーラム 完全リモート配信で開催

令和 2 年 12 月 13 日 (日)、岩手県では、「いわて三陸復興フォーラム」を観客席等を設けずに、完全リモート配信で開催しました。

このフォーラムは、県沿岸部 4 か所 (久慈市、宮古市、釜石市及び陸前高田市) と東京都 (いわて銀河プラザ) をリモートで繋いで配信され、当日は 3,000 を超える視聴数がありました。

フォーラムには、スペシャルゲストとして俳優の村上弘明さん、ゲストリポーターとしてタレントの志田友美さんが出演しました。

「復興 10 年の歩み～国内外からの応援に感謝」と題したオープニング映像の後、「達増知事と小池東京都知事の特別知事対談」が放映されました。達増知事からは県内の復興状況やこれまでの復興支援に対する感謝など、また、小池知事からは被災地への継続した支援と東京 2020 大会の成功に向けた抱負などが述べられました。

また、県内の各配信場所からゲストパネラーとして久慈市の柏木美子さん (櫛街の駅・久慈 企画営業課長)、宮古市の赤沼喜典さん (三陸鉄道株式会社 宮古駅長)、釜石市の菊池のどかさん (いのちをつなぐ未来館ガイド)、陸前高田市の人首ますよさん (東日本大震災津波伝承館「いわて TSUNAMI メモリアル」解説員) が出演し、これまでの復興支援への感謝や現在の活動事例、今後に向けた抱負などを語りました。

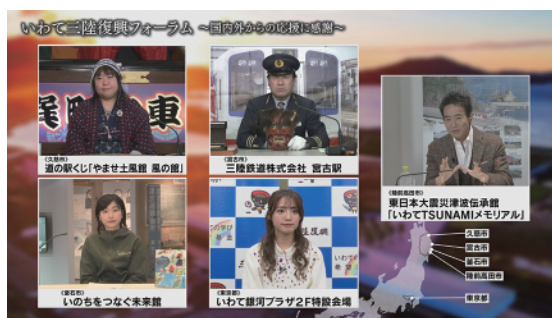
その後、いわて銀河プラザから岩手県産品 PR として、

志田さんや長澤由美子さん (いわて銀河プラザ 店長) から、コロナ禍でもオンラインで購入ができる岩手県産品など、魅力的な商品が多数紹介されました。

最後に、村上さんは「岩手県民はこれまで様々な困難に立ち向かってきた。いわて国体やラグビーワールドカップなど、必ずそこには国内外からの支援や応援への感謝があった。これからもその気持ちを持ちながら、ともに進んでいきましょう。」と述べました。

県では、引き続き岩手の復興の姿と震災の教訓の伝承・発信に取り組んでいきます。

このフォーラムの様子は、令和 3 年 2 月 28 日 (日) まで岩手県公式動画チャンネルからご覧いただけます。



配信中の様子

動画の視聴
はこちら



オンライン
での県産品
購入はこちら



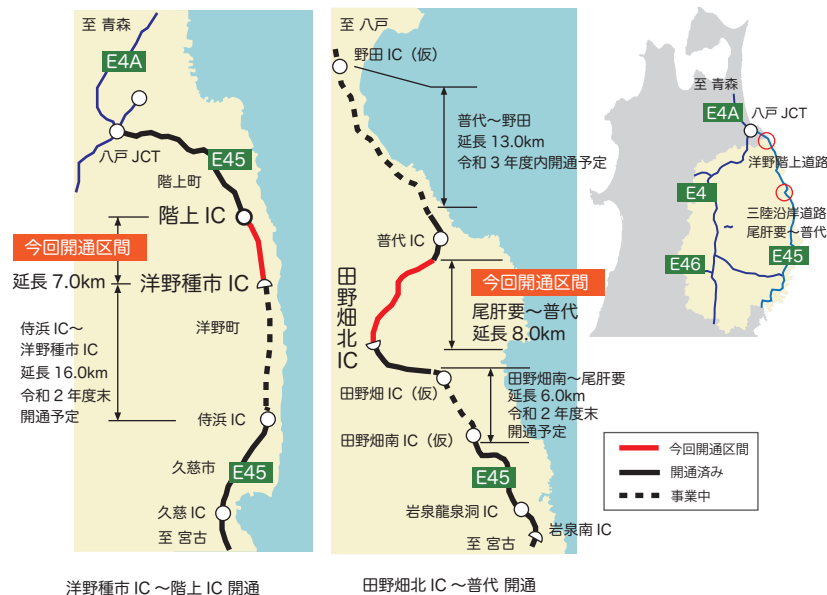
三陸沿岸道路 順次開通 「洋野種市 IC ～階上 IC」、 「田野畑北 IC ～普代」

洋野町 田野畑村 普代村
HIRONO TANOHATA FUDAI

令和2年12月12日（土）に、三陸沿岸道路（総延長359km）のうち、「洋野種市 IC ～階上 IC」間（延長7km、うち県内区間4km）が、また19日（土）には「田野畑北 IC ～普代」間（延長8km）がそれぞれ開通しました。

今回の開通により、本県沿岸北部の洋野町と青森県八戸市が自動車専用道路で結ばれ、県境を越えた地域間交流の促進が図られるとともに、三陸沿岸地域の豊かな自然の恵みを活かした観光振興や水産業・畜産業等の地域産業の活性化が期待されます。

また、今回の開通区間に並行する国道45号の交通の難所が解消するとともに、迅速で安定した救急医療活動にも寄与することが見込まれます。



宮古盛岡横断道路 区界道路 「区界～築川」開通

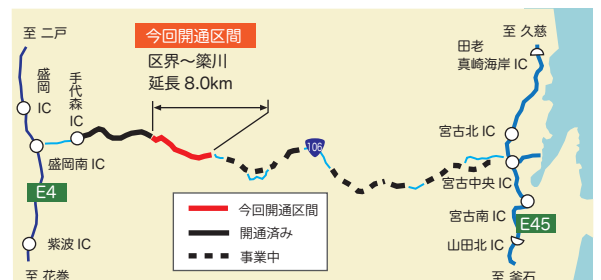
盛岡市 宮古市
MORIOKA MIYAKO

令和2年12月5日（土）、整備が進む宮古盛岡横断道路（総延長66km）のうち、「区界～築川」間（延長8km）が開通しました。

今回、道路トンネルとしては県内最長となる約5kmの新区界トンネルなどが開通したことにより、区界峠を含む交通の難所が解消し、沿岸と内陸間の移動時間が大幅に短縮され、円滑な物流、救急搬送をはじめとする医療活動の支援、冬期の走行安全性の向上など多くの効果が期待されます。



開通式でのテープカットの様子（提供：岩手河川国道事務所）



区界～築川 開通

県内の災害公営住宅 全戸完成

盛岡市
MORIOKA

令和2年12月7日（月）、岩手県が盛岡市に整備していた災害公営住宅「県営南青山アパート」が完成しました。

このアパートは、鉄筋コンクリート造4階建て2棟と3階建て2棟の計4棟（全99戸）となっています。

これにより、東日本大震災津波により住まいを失った方の暮らしの再建に向けて進めてきた県内の災害公営住宅5,833戸がすべて完成しました。

アパートには、「支援センター」を併設し、新たな暮らしと、入居者同士や地域の方とのコミュニティづくりをサポートします。

達増知事は「被災者の生活が新しいステージに移ることになり大変良かった。県として引き続きコミュニティづくりを支援したい。」とコメントしました。

被災者の入居は令和3年2月から開始する予定です。

県では引き続き、被災者の新たな住まいでの心のケアやコミュニティ形成支援などに取り組んでいきます。

■問い合わせ：岩手県県土整備部建築住宅課
☎ 019-629-5934



完成した南青山アパート

東日本大震災津波の被害を受けた沿岸地域の郷土芸能の復興の姿と支援への感謝をお伝えしていきます。今回は、釜石市の郷土芸能「桜舞太鼓」について、佐藤 勇人さんに伺いました。



鼓舞桜会 会長
佐藤 勇人 さん

桜舞太鼓は、釜石市唐丹（とうに）町本郷地区で、3年に1度、4月に開催されている「釜石さくら祭」の手踊太鼓の源流として昭和28年に発足しました。

桜の花びらが舞い躍る様をイメージしたバチさばきから「桜舞太鼓」という名前がついています。

震災で本郷地区は、防潮堤も壊れ、多くの家屋が被災し、漁師の納屋も全滅しました。

私たちが震災前は、本郷地区にある市の生活改善センターに道具を保管し、練習の場としても利用していたのですが、震災で施設は津波にのみ込まれました。当時30台ほどあった太鼓をはじめ、全ての道具が流失し、会員全員が職場や家を流されるなどの被害を受け、残念なことに犠牲者も出てしまいました。

震災後は、ガレキの中から数台の太鼓を見つけ、皆さんから「復活してほしい」との声をいただく中、今後の

活動について会員で話し合い、亡くなった仲間の遺志を継ぐためにも復活させることを決意しました。

また、全国多方面の方々からの支援を受け、震災の年の6月には活動を再開し、7月に釜石市内で行われた「釜石夏の港まつり」では、ガレキの中にステージが生まれ、私たちもボロボロの道具と音も鳴らないような太鼓で復活を果たしました。平成30年には、「釜石さくら祭」で本来の姿の桜舞太鼓を披露することができました。

「桜舞太鼓」は、唐丹町に根付いた伝統芸能なので、コロナ禍ではありますが、これからもこの町と共に発展していきたいと思っています。



「桜舞太鼓」の演舞の様子（写真提供：菊地写真館）



さんりくイベント情報



令和2年度第2回いわて復興未来塾

申込締切：令和3年1月20日（水）

<併催>：いわて三陸復興フォーラム、いわての復興を自治の進化に第8回シンポジウム

県では、東日本大震災津波からの復興を進め、復興を担う人材の育成や人的ネットワークをつくるため「いわて復興未来塾」を開催しています。参加費無料、どなたでも参加できます。

当日の様様については、岩手県公式インターネット番組ニコニコ生放送「いわて希望チャンネル」で生配信を行います。

詳細はこちら



1日目 >> (定員 60名)

<全体会> ~間もなく10年、復興のこれから~

- 日時 令和3年1月31日（日）
13時30分～15時30分
- 場所 エスポワールいわて2階大ホール
(盛岡市中央通1丁目1-38)

プログラム (司会進行) 東日本大震災津波伝承館解説員
人首 ますよ (ひとかべますよ) 氏

【基調講演】 ㈱岩手朝日テレビ営業部
アシスタントマネージャー
山田 理 (やまだ さとる) 氏

【事例報告①】 宮古市産業振興部観光課
もてなし観光係 係長
松浦 宏隆 (まつうら ひろたか) 氏

【事例報告②】 ㈱八木澤商店 代表取締役社長
河野 通洋 (こうのみちひろ) 氏

2日目 >> (定員 60名)

<内陸報告会>

- 日時 令和3年2月1日（月）
13時30分～15時30分
- 場所 エスポワールいわて2階大ホール
(盛岡市中央通1丁目1-38)

プログラム

【基調講演】
関 博之 (せき ひろゆき) 氏
(地方職員共済組合理事長、元復興庁事務次官)

【応援職員による活動事例報告】

【申込方法】

件名を「いわて復興未来塾参加申込」として、下記の必要事項をご記入の上、E-mail (AJ0001@pref.iwate.jp) 又は郵送又はFAXで申込みください。
(氏名(ふりがな) / 所属・団体名等 / 住所 / 電話番号メールアドレス / 参加希望日)

■ 問い合わせ及び申込先：岩手県復興局復興推進課 (盛岡市内丸10-1)

☎ 019-629-6945 FAX 019-629-6944

世界へ、未来へ、「いわて TSUNAMI メモリアル」

東日本大震災津波の事実と教訓を伝える施設「東日本大震災津波伝承館」
(いわて TSUNAMI (つなみ) メモリアル) を紹介します。

なお、現在、新型コロナウイルス感染症対策を行った上で開館しております。

令和2年12月5日(土)、東日本大震災津波伝承館に隣接する道の駅高田松原で、東京2020大会のオリンピック聖火リレー、パラリンピック聖火フェスティバルのカウントダウンボード除幕セレモニーが行われました。

復興五輪を理念に掲げる東京2020大会は、来年6月にオリンピック聖火リレー、また8月にはパラリンピック聖火フェスティバルが岩手県でも開催される予定です。

このセレモニーは、フェスティバルまで250日となったこの日、復興五輪の成功へ向け、復興の最前線を担う陸前高田市にカウントダウンボードが設置されることに合わせて開催されたもので、戸羽陸前高田市長や、同市の社会福祉事業所 あすなるホームに通う菊池皓瑛(てるあき)さん、小泉友(ゆう)さんらが参加しました。

戸羽市長は、「東日本大震災では世界中から応援をいただいた。復興五輪でお礼と感謝の気持ちを伝えたい」と挨拶され、

このカウントダウンボードの設置により、復興五輪への機運の盛り上がり期待されます。



除幕式終了後の記念撮影

■問い合わせ：東日本大震災津波伝承館
☎ 0192-47-4455



連載「いわてさんりくびと」では、被災地・三陸の復興に向け、熱い想いをもち、活躍する方々を紹介していきます。

第114回は、眞下 美紀子さんを紹介します。

PROFILE

洋野町出身。高校卒業後、大学進学のため上京し、広告や飲食関係の仕事に携わる。

平成28年4月に「株式会社ひろの屋」に入社し、現在は、同社の子会社「北三陸ファクトリー」の取締役として、北三陸の食材のブランド強化を図るとともに、新事業の開拓に取り組む。

地元の産業の継続を

震災当時、なかなか地元に戻れず、何もできなかったということを感じていた眞下さんは、地元になにか貢献できないかと強く思うようになり、平成28年に洋野町に戻り、地元での就職を決意しました。

「現在は、「北三陸ファクトリー」で、これま

いわて さんりく びと

株式会社 北三陸ファクトリー
取締役 眞下 美紀子さん
(まっか みきこ)



海と産業と人の
好循環を
創造する!!

での経験を生かし、『北三陸海の学校』という人材育成の構想を進めています。プラスチックゴミや、海藻がなくなってしまう“磯焼け”などの課題や水産業の魅力ワークショップなどを通じて中高生をはじめ若い人たちに伝えていきたいと思っています。」と眞下さんは、地元の産業の継続に向けて、意気込みを語っています。

地域に還元し、次世代に繋げる

「洋野町に戻ってみると、美味しい食材をはじめ、地元の人が意識していない“地域の価値”があると感じています。それを掘り起こして地域で頑張っている生産者さんに還元できる仕組みを作りたいと思っています。また、UターンやIターンも含め、自分でも何かやりたいと思っている人たちも多いと思うので、地域の中で活躍しながら自分を表現できる環境を創り、次の世代に繋げていきたいと思っています。」と眞下さんは、自身がUターンで感じた経験から、地域の魅力の発見と発信に力を注いでいます。

岩手県の被害状況

令和2年11月30日現在

- ▶人的被害 死者(直接死): 4,674人 行方不明者: 1,111人
死者(関連死): 469人
- ▶建物被害(住家のみ、全半壊) 26,079棟

被害状況等の詳細

義援金・寄付金の募集等

[いわて防災情報ポータル](#)

検索

皆様のご支援、ありがとうございます

令和2年11月30日現在

- ▶義援金受付状況 約187億4955万円(97,709件)
 - ▶寄付金受付状況 約201億1935万円(10,398件)
 - ▶いわての学び希望基金(※)受付状況 約102億5422万円(24,978件)
- ※被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。



いわて震災津波アーカイブ～希望～
約24万点の資料を検索・閲覧できます。



[いわて震災津波アーカイブ](#)

検索

いわて復興だより 第168号 令和2年12月24日発行
企画・発行：岩手県復興局復興推進課 ☎ 019-629-6945
編集・印刷：シナプス